

第2章

[その3] safety first

ラグビーを楽しむ行為が safety 安全であることが達成されるよう終始一貫ルール意志として凝固されその結果がラグビー発展・普及の土台となり根幹として大きな役目を果たしていることは明白です。先に equal condition と open play に述べた中にもありましたが安全であったからこそ即ち安全であることに十分留意がはらわれてきたからこそそれが達成され今日があると言わざるを得ません。

既に安全確保についていくつかのプレーをとりあげてきましたが最初の安全ルールは「ボールを持っている人は捕まえられたらボールを手放す」というものでした。スクラム、タッチ、ラック、モール等読み直していただければ有り難いです。キックを受けたプレーヤーの危険を守るための 10mサークルルールは古くから今日も重要とされています。地に足が着いていないキャッチャーへのタックルは非常に危険です。ボールを持っている人への肩の線より上の部分への高いタックルが後を絶ちません。

第9条^(*)ルールの条文の中の「危険なプレー」だけが危険なことではないことは言うまでもありません。やり方によっては危険につながることはいろいろな場合に指摘されます。「一生懸命やった」、「勝つためにやった」ということは許されません。

*1 <https://laws.worldrugby.org/?law=9>

試合に勝つことは楽しいです。勝つために全力を尽くすことのやり甲斐その楽しさは何物も代えられません。しかし勝つための活動・その道筋・やり方がまちがってはいならないことは言うまでもありません。例えばスクラムで、クラウチ、ホールド、セットと三段階に組み合わせることによって equal、open、safety の三つを確保するルールになっていますがその活動の中でその流れに沿いながら如何に有利な状態を作り出すか考えて実行しようとしています。ここでやっかいな勝利至上主義が前面に出ることです。勝つことを目標にすることは悪くはないのですが勝つために何をやってもよいという考えに結びつくことと法に反することまでとり入れ実行することになってしまいます。例えば昔スクラムで組み勝つために後へ退って離れたところから勢いよく組む方法が考えだされ実行された時代がありました。スクラムを低い姿勢から上向きに押すことは有利な押し方です。問題は低すぎて双方一体となって地面に崩れる場合です。また第一列が水平より頭を下向きに下げて押すことも低い方がよいという理屈には結びつきません。スクラムの組み方一つをとってみてもこれだけの駆け引きとルール違反がレフリーの目をかすめて実行されるのです。禁止行為をしないだけでなく、禁止行為と結びつく行為についても safety first は絶対大切なのです。

タックルについてもいくつかのことが言えます。14条^(*)タックルのプレーヤーの責任としてタックルされたプレーヤーについて a～e と細かく規定されていますが「ただちに」の感覚の問題としていろいろなケースが生じてきます。

*2 <https://laws.worldrugby.org/?law=14>

ラグビーを危険なスポーツと考えている人がいますが問題はルールを守らずに危険なことを無茶苦茶にしたからであってラグビーに関係のないことと言いたいです。

ラグビー憲章^{*3}にもいろいろな所で安全性の確保について述べています。理解するだけでなく精神的なものも含めてルールを生かすことが求められています。ルールはあなたを守りあなたの楽しみを大きくしてくれるあなたの味方です。試合を見る側にあっても楽しみを大きくしてくれる大きな同志です。

危険防止の第一歩はプレーヤー各自の身体づくりであることが強く叫ばれています。ラグビー憲章ではいろいろな所でプレーヤー各自が自身の身体を鍛えることが相手の身体をも守ることが説かれています。

*3 <https://laws.worldrugby.org/?charter=all>

2020/06/28

西川 義行